

# 「市地震災害復旧・復興本部」を設置

## 福岡県西方沖地震から1か月

福岡市を突然襲った「福岡県西方沖地震」で、市は「福岡市地震災害復旧・復興本部」を四月十二日に設置し、市民の生活再建や施設復旧などに向けた取り組みを開始するとともに、西区玄界島に復興事務所を開設しました。また四月下旬には、玄界島の皆さんが入居する仮設住宅が完成。西区西浦地区、能古島、東区志賀島でも仮設住宅の建設が進んでいます。震災から一か月余り。大きな余震もあつたものの、復旧・復興に向けた動きが本格化しています。(この記事は四月二十日時点で書いています) 2・3面に関連記事。

# 復旧に向け活動本格化



大規模な余震があつた4月20日、玄界島で家々の間を見回る市職員

市は、地震発生直後に「福岡市災害対策本部」を設置し、市民の安全確保を第一に、情報収集や地震による被害への応急対応を行ってきました。

「福岡市地震災害復旧・復興本部」は、本震による被害への対応が進んできたことを受け、今後、復旧・復興に、より重点的に取り組むため、新たに設置したものです。

同本部は「生活再建」「産業支援」「インフラ復旧」「玄界島復興」の四つのプロジェクトを中心に、復旧・復興のための活動を進めています。それぞれのプロジェクトのあらまは、次のとおりです。

### 玄界島に復興事務所

#### 市職員5人を配置

「玄界島復興プロジェクト」の一環として、市は、四月二十日、現地に「玄界島復興事務所」を設置しました。

同事務所では、須川哲治部長以下五人の職員が、▽住民の生活支援に関する相談の受け付け▽地盤や建物などの現状調査▽今後のまちづくりに向けた住民の意向調査▽復興計画の策定に関する調整——などにあたります。



復興事務所の開設式で手をとり合う市漁協玄界島支所(左)と伊藤和義さん(右)と須川哲治部長

また市役所内には、同事務所との連絡調整を行う職員二人を配置。現地での活動を支援します。

### 仮設住宅がいよいよ完成

玄界島の住民の皆さんは、地震が発生した日に着の身着のまま避難して以来、一か月以上になつて、市九電記念体育館で避難生活を送ってきました。その皆さんが待ちわびていた仮設住宅がいよいよ完成します。

仮設住宅は玄界島に百戸、中央区港の「かもめ広場」に百戸の計二百戸です。三月二十九日から県が建設を進めてきました。各戸の間取りは、四畳半二

間と六畳の台所の2DKで、広さは二九・七平方メートルです。玄界島の住民の皆さんは、ようやく体育館での生活から解放され、自由ながらも、新しい住まいに移ることにになりました。四月二十五日に入居、続いて翌二十六日に玄界島への帰島と島内の仮設住宅への入居が行われる予定です。



玄界島に建設中の仮設住宅(4月18日撮影)

# 「こんな時こそ明るく」

## 玄界小児童30人



仮校舎で学ぶ玄界小の一年生たち

入学の季節を迎え、玄界小学校にも六人の新しい年が入ってきました。同校の児童数は、これで三十人になりました。児童たちは、避難所そばの平尾小学校の空き教室を利用した「仮校舎」に毎日通学しています。この仮校舎は、五月上旬には、仮設住宅に近い簗子小学校内に移ることになっています。

「早く島に帰りたい」と思っている子どもたちも、仮校舎に登校するのを見てみると、島の姿を思い出し、子どもたちも思っています。

「今回のことは、努めてよい方に考えるようにしています。こちらでは、例えば公共施設の見学など、島ではできない経験もできます。いろんな体験や発見をして、島に戻った時に、子どもたちと『あの時は大変だったけど、いい経験もしたね』と話し合えるように、こういう時だからこそ明るく元気にやっていきたいと思っています」と荒武教諭は話していました。

福岡県西方沖地震

西浦、宮浦、志賀島でも被害大

住宅と道路で支援

福岡県西方沖地震により、西区西浦地区、宮浦地区や東区志賀島などでも大きな被害がありました。住まいや仕事場が震災により大きな打撃を受け、地域の皆さんは将来に不安を抱えています。市は、災害の復旧・復興のため被災支援策を進めています。



地域のつながり 地震により影響

西区今津から海沿いの道を北へ向かい、西浦地区や宮浦地区を擁する北崎校区へ入ると、屋根の上はブルーシートを掛けられた住宅の数々が視界に入ります。瓦が滑り落ちた

り壁がはげ落ちたりするなど、住宅が地震の被害を受けた世帯数は、同校区全体の世帯数九百弱のうち六百を超えており、うち三割強を宮浦地区、四割強を西浦地区が占めています。

左上の写真は宮浦地区にある住宅で、地震の直後に撮影したものです。屋根瓦が落ちた母屋、壁がはげ落ち構造がむき出しになった蔵など、地震の影響がいかに大きかったか、知ることができません。現在、母屋の入り口には、市の応急危険判定で「危険」を示す赤い紙、納屋には「要注意」を示す黄色の紙が張ってあります。

写真の住宅の持ち主である寺田準一さん(71)は、西区周船寺の親類宅に身を寄せています。寺田さんによると、住宅に被害を受けた人の中には、被害が少なかった納屋などで寝泊まりしている人もいます。

また、著しく損壊した住宅のうちいくつかは、既に更地になっていたり、そこにかつて住んでいた世帯の中には、損壊した家屋を復旧する経済



荷待ちだったが、地震のため車から地面へ落ち痛んでしまった。また、ハウス内を温めるための火として使う重油が入ったタンクが倒れたところもあった」と、同校区自治協議会会長の稲永徹彦さん(67)は、「北崎は高齢者が多く過疎化が進んでいる地域。そこへ今回の震災で打撃を受けた。住む場所が痛んだ世帯は多く、中にはやむを得ず北崎を離れる世帯が出てしまい、誠に残念でならない」と、震災の被害が地域に与えた影響に、悔しさをにじませていました。

漁業や農業にも 震災の猛威及ぶ

北崎校区は、漁業や農業が盛んな地域です。西浦地区の西ノ浦漁港では、荷さげき場に走った亀裂のため、水揚げした魚を運ぶリフトが運転できず、四月六日まで漁業が中断していました。農業は、花の栽培が中心で、至る所に「ニールハウス」が見られます。「花々は卓上に置かれ出



志賀島は、島を囲う主要道路で土砂崩れ島民の「足」を奪う

た日は日曜日でしたが、幸い、住民や行楽客など人が土砂災害に巻き込まれずに済みました。島の北部にある勝馬地区は、他の地区へ抜ける海沿いの道を土砂でふさがれてしまいました。特に同地区から西側海岸へ向かう道は、同地区に住む中学生が海の中道にある中学へ通学するときに使うなど住民が「足」として利用する西鉄バスが北に貫く山越えの道路としており、島民の交通に重要な道路です。しかし、海沿いの道は「陸の孤島」と化して通行止めになっていました。



志賀島は、島を囲う主要道路で土砂崩れ島民の「足」を奪う

「福岡県西方沖地震」報道写真展を開催

市は、西日本新聞社と共催で、福岡県西方沖地震の様子を収めた報道写真の展覧会を、5月9日から15日まで、イムズビル(中央区天神一)地下2階広場で開催します。玄界島をはじめ市内各所の被害状況と復旧の様子を西日本新聞が納めた写真のうち、40点を掲示します。入場は無料です。【問い合わせ先】広報課(☎711-4016)732-1358



地震の衝撃で完全に倒壊した木造の民家

仮設住宅が着工し 道路の復旧が進む

市は、仮設住宅の建設を玄界島以外の地域でも行うよう県に要請しました。それを受けて県は、志賀島に十六戸、西浦に十二戸、西区能古島に三戸の仮設住宅の建設を決定しました。西ノ浦漁港内の公園など市が管理する土地を利用して、四月十九日から建設工事が始まっています。住宅の完成は五月下旬の予定です。

一方、土砂でふさがれた志賀島の道路のうち、島の西側道路の復旧工事が三月二十九日から始まっています。震災が起きた三月二十日以後、四月二十五日に通行止めを解除する予定です(四月二十一日現在)。

福岡県西方沖地震

震度5強、本震以降最大の余震 4月20日 市民生活に不安



不安な夜を迎える避難所＝警固公民館

市消防本部には、地震だけが来た市民から19番通報が相次ぎました。七十代の男性がアキレスけんを切るなど約五十人がけがをしました。西區玄界島ではけが崩れが発生し、住宅一棟が全壊しました。市内で被害があった住宅は百棟を上回っています。また、玄界島の皆さんが避難する九電記念体育館でガラスが割れたり、商業ビルの壁がはげ落ちたりするなど、建物にも被害が及びました。

三月二十日の本震以降、断続的に発生した余震のうちで最大のものとなった四月二十日の余震は、規模がマグニチュード5・8、中央区や博多区などで震度5強を観測しました。市内各所で人や建物に被害が発生し、交通網は混乱して、再び市民の皆さんに恐怖をよみがえらせ、生活を脅かしました。

人や建物に被害 通勤の足乱れる

被災者救援のため義援金を募っています

【受け入れ場所】各郵便局 【口座番号】01740-0-24545 【加入者名】福岡市災害対策本部 ※5月31日まで、通常払込み・通常振替の料金が免除されます。

「災害に強い地域づくり講座」 受講希望者を受け付け中

市は、消火器の使い方や応急手当など防災の基礎知識について、消防署員を講師とした講座を開いています。「災害時に自分たちの命・財産を守るためには何をすべきか」をテーマに、皆さんの住む地域の特性に応じた内容で講義と実演を行います。費用は無料で、講座にかかる時間は1、2時間程度です。対象は、市内に住む人で、講座に参加する人数が20名程度の団体です。日程や会場など、詳しい内容は相談のうえ決定します。

Table with 3 columns: District (東, 博多, 中央, 南, 城南, 早良, 西), Phone Number, and Fax Number.

三月二十日に起こった福岡県西方沖地震は、災害の恐ろしさを、わたしたち行政や市民の皆さんに伝えました。皆さんの中には、「もし地震を巻き込むほどの災害が起こったら、そのときになってどうするか考えて困った者同士で助け合えばよい」という安易な気持ちで、これまで過ごしてきた人がいるかもしれません。

玄界島をモデルケースに 災害に強い地域をつくりましょう

望まれる自主防災組織 玄界島の防災被害を最小に

先ず、今回の地震が示すように、災害とは予期しない時に起こるものです。大規模な災害が発生した後、皆さんがそれぞれ地域の中で、災害に對してどのように動くかが役割が決まっています。住民同士が地域の中で

自主防災組織は、「自分たちのまちで守る」という意識のもと、住民の皆さんが地域で連帯し災害に備えて組織する団体です。

活動内容は、例えば、災害時に避難する場所とそこに至る経路の確認、



「自主防災リーダーマニュアル」は、同ガイドブックの単元を全八十ページに及んで個別に詳しく著してあります。自主防災の理念から応急手当の詳しい解説まで、防災について幅広く知識を得られます。詳しくはお問い合わせください。

水害対策 止水板の設置費用を補助 中小企業を対象

止水板とは、製造会社によって止水板、防水板、防水扉など名称はまちまちですが、建物の地下や一階部分への浸水を防ぐため出入口口に設置する、鉄やアルミなどでできた板をいいます。人が持ち運んで設置するものや、機械式により自動的に設置されるものがあります。

「備えあれば憂いなし」という格言があります。福岡県西方沖地震のような誰も予想を覆し

「自主防災リーダーマニュアル」は、同ガイドブックの単元を全八十ページに及んで個別に詳しく著してあります。自主防災の理念から応急手当の詳しい解説まで、防災について幅広く知識を得られます。詳しくはお問い合わせください。